

(様式 1-2)

提出日：2020 年 4 月 21 日

2019 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業

(2) 研究成果の概要

課題名		オートファジー抑制因子 Rubicon の機能発現機構の解明	
研究代表者	氏名	上西達也	
	所属機関名・部局名	大阪大学・大学院医学系研究科	
	職名	助教	
事業名 (該当の事業名の右欄に○)	<input type="radio"/>	共同研究員	
	<input type="radio"/>	超高磁場NMR 共同利用研究課題	
	<input type="radio"/>	クライオ電子顕微鏡共同利用研究課題	
	<input type="radio"/>	客員フェロー	
蛋白研受入担当教員名		中川敦史	
<p>Rubicon の全長および C 末端ドメインを大量発現させるための pCold TF ベクターを、ヒートショック法により BL21-CodonPlus(DE3)-RIP コンピテントセルに導入した。新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言が解除されて実験が可能になり次第、大量発現を開始したい。</p>			